

12/19特別講義 I レポート

提出日：1/4

学籍番号：223337

名前：田川幸汰

1. メディア体験と認知科学（もしくは心理学や神経科学）の関係について感じたことや考えたことを自分の言葉で記述してください。

今回の講義を通じて、メディア体験の向上には認知科学の研究が大きく関係していると実感しました。例えば、私はVR体験中に映像酔いを感じやすいことから、前沢知輝らによる「VR映像での3人称視点導入による映像酔いの低減と空間認知の向上」という研究に関心を抱きました。この研究では、VR映像に3人称視点を導入することで、ユーザーが自身のアバターを客観的に認識できる視点を提供しています。これにより、感覚間のミスマッチが緩和され、映像酔いを軽減するとともに、空間認知能力が向上することが示されています。VRのような没入型メディアは、実在感や空間認知、感情的共感に大きな影響を与えますが、一方で映像酔いや身体的負担を引き起こすリスクもあります。このような課題を解決するには、認知科学の知見を活用した技術的な工夫が不可欠です。映像酔いをさらに低減できれば、VRは教育、医療、介護等の遠隔作業など、より多様な分野での応用が期待され、普及が加速すると考えられます。また、この研究以外にも、メディア体験を向上させるための認知科学の多様な研究は、ユーザーにとってより快適で有益な技術の実現に欠かせない要素です。今後も、認知科学の進展が私たちのメディアとの関わり方をどのように変えていくのかに注目したいと感じました。